



しもつま

市議会だより

第191号 平成24年8月10日発行

発行／下妻市議会 発行責任者／議長 増田省吾 編集／議会だより運営委員会
〒304-8501 下妻市本城町2-22 電話(0296)43-2111(代) 内線1112・1113

今月号のあんない

臨時会・定例会	2
一般質問	3～9
請願・陳情の審議結果	9
常任委員会 行政視察研修報告	10
永年勤続議員表彰	12
Eポート大会出場	12
議会日誌	12

祝 ロンドンオリンピック女子近代
黒須 成美 選手



黒須成美選手 壮行会

こんなことが決まりました

平成二十四年第一回臨時会

平成二十四年第二回定例会

平成24年 第1回 臨時会		
議案番号	件 名	結 果
議案第35号	大宝小学校校舎耐震補強・改修工事（建築）請負契約について	原案可決
報告第2号	専決処分の承認を求めることについて「下妻市市税条例の一部改正について」	承 認
報告第3号	専決処分の承認を求めることについて「下妻市国民健康保険税条例の一部改正について」	承 認
報告第4号	専決処分の承認を求めることについて「平成23年度下妻市一般会計補正予算（第8号）について」	承 認
報告第5号	専決処分の報告について「損害賠償について」	報告のみ
平成24年 第2回 定例会		
議案第36号	住民基本台帳法の一部を改正する法律等の施行に伴う関係条例の整理について	原案可決
議案第37号	下妻市暴力団排除条例の制定について	原案可決
議案第38号	平成24年度下妻市一般会計補正予算（第1号）について	原案可決
報告第6号	平成23年度下妻市一般会計繰越明許費繰越計算について	報告のみ
報告第7号	平成23年度下妻市下水道事業特別会計繰越明許費繰越計算について	報告のみ
報告第8号	財団法人下妻市開発公社平成23年度経営状況報告について	報告のみ
諮問第1号	人権擁護委員の推薦に関し意見を求めることについて	同 意
諮問第2号	人権擁護委員の推薦に関し意見を求めることについて	同 意
諮問第3号	人権擁護委員の推薦に関し意見を求めることについて	同 意
諮問第4号	人権擁護委員の推薦に関し意見を求めることについて	同 意

第1回臨時会が5月11日に開かれました。臨時会では、市長提出議案1件、報告4件の審議が行われ、それぞれ原案のとおり可決、承認、報告されました。

また、第2回定例会が6月6日から6月15日までの10日間にわたって開催されました。定例会では、市長提出議案3件、報告3件、諮問4件が審議され、それぞれ原案のとおり可決、報告、同意され、継続審査となっていました陳情1件、請願1件はそれぞれ不採択となりました。

人事議案

◆人権擁護委員

平成24年第2回定例会において、次の4人の方々を人権擁護委員に推薦することについて同意されました。

飯塚 榮子氏
須藤 澄子氏
武井 守氏
横田 芳宏氏

平成二十四年
第二回定例会

一般質問

今定例会では、9名の議員から市政各般についての一般質問が展開されました。
要旨は、次のとおりです。

税滞納者にも親身になつてくれる市役所窓口となる事について

平井 誠 議員



納税相談を行っています

質問

昨年の定例会においても同様の一般質問をしたが、3年連続で年間の差押え件数が500件を超えている。滞納処分は厳し過ぎる。その時の答弁では、「税の公平性を保つことと、弱者へのセーフティネットも応援していきたい。」とのこと

一般質問者の氏名・項目は次のとおりです。

(通告順)

1 平井 誠 議員

4 程塚 裕行 議員

7 斯波 元気 議員

1 税滞納者にも親身になつてくれる市役所窓口となる事について

1 防災対策の強化について

1 ホームページのリニューアルについて

2 学童保育クラブ事業の拡大で、子育て支援の更なる充実を求めて

5 山中 祐子 議員

1 地域防災対策について

8 塚越 節 議員

3 障害者就職について

2 デマンドタクシー事業の創設について

1 当市に於ける、教育振興策について

2 菊池 博 議員

3 野生絶滅種
コシガヤホシクサを再び砂沼に

9 柴 孝光 議員

1 予防医療の推進について

2 各種団体への補助金・助成金の見直しについて

1 市内小中学校の今後の計画について

6 廣瀬 榮 議員

3 原部 司 議員

1 小学校の統合について
2 老朽化してくるインフラの対処について

1 児童・生徒の医療費について

2 環境問題について

2 環境問題について

だったが、滞納分を月いくらと分納しているところに、急に増額しろ、しなければ差押えするなどと言われれば、市民はどうしていいのかわからなくなってしまう。

長引く不況のもと、大震災も重なって、滞納者の多くは払いたくても払えないのである。

市役所窓口においては、仕事や生活実態をよく聞いて、その内容によっては社会福祉協議会で毎月行っている法律相談や福祉の制度を紹介するなど、内容によっては担当課につなぐなどしてほしい。

また、市職員はよく相談に乗ってくれる、親切だと市民から信頼されるようになってほしいと思うがいかがか。

答弁

税は本来、定められた期日までに納めることになっており、分割

納付は特別な事情によりどうしても期限内に納められない場合にのみ、税法では定められていない一時的な措置である。そうした分割納付をしている方には、定期的に給与、預金等の財産調査を行い、結果、増額が可能と判断した場合には期限内に納めている方との公

平性を保つためにも、相談の上、増額の要請を行っている。

収納課では、定期的に夜間及び休日の納税相談窓口を開設し、相談の機会を増やし、窓口カウンターには間仕切りボードを設置し、プライバシー保護に努め、納税者が安心して気軽に相談できるように対応している。

今後も税滞納者の仕事、生活等の実態をよく聞き、実情を考慮した相談を行い、税収入の確保に努めていきたいと考えている。

予防医療の推進について

菊池 博 議員

質問

今年度、医療報酬と介護報酬の同時改定が行われた。超高齢化社

会のあるべき医療の姿を見据えて、あるいは持続可能な保健医療制度

のために厚生労働省が大きな流れを示したものといえる。

今現在の諸問題を解決することでも大切なことだが、十数年後の近い将来を見据えて今何をすべきか、何を選択するのが一番大切なことだと思われる。

そこで、1つ目に市の医療費の増加額はどうなっているのか。

2つ目に国保基金残高が減っているが、財政状況はどうなっているのか。

3つ目に超高齢化社会における医療費の抑制には、高齢者医療費



ねんりんピックがほんとランド・きぬで開催されました

国民健康保険支払準備基金については、国保の基盤を安定・強化する観点から基金の不用額については過去3年間における保険給付費の平均年額5パーセント以上に相当する額を積み立てることと国から示されている。

国保の財政状況としては、国・県の負担金及び交付金等、国保税及び一般会計繰入金で賄っているが、増加傾向の医療給付費に加え、後期高齢者支援金や介護納付金などの拠出金等が医療保険者の負担となり、財政状況は厳しい状況にあると予想している。

そこで、治療だけでは医療費が増えていくため、予防もあわせて地域包括的な保健活動の展開が医療費抑制の効果につながると考え、保健師による多受診者や高額医療費が予想されるハイリスク者に対し、訪問指導等を実施し、医療費の削減に努めているところである。すべての市民が身近なところから健康的な生活を心がけ、毎日の生活をもっと楽しみ、健康で自立して生活できる健康寿命の延伸を目指して、予防を重視した健康増進活動の推進が大きな施策と考えている。

答弁

国民健康保険の保険給付費は、平成23年度決算見込みでは被保険者数の減少に伴い、前年度より全体では若干減少している。

児童・生徒の医療費について

原部 司 議員

質問

下妻市は、現在、県のガイドラインに基づき、小学3年生まで医療費を無料化している。また、3月の定例会で小学校卒業まで無料化することが決定し、本年10月から実施される。

しかし、県内44の市町村の中では、自治体独自にさらに枠拡大をしている自治体もある。

中学校卒業まで無料化の自治体が20ある。この中には入院のみ対象が6自治体含まれてはいるが、県内全体の45パーセントに当たる。当市においても、市民福祉向上の一環として、義務教育の中学校卒業まで拡大してはと思うが、いかがなものか。

また、中学校卒業まで拡大した場合、医療費や審査支払手数料など含めた金額はどれぐらいになる



各種健診等を行っています

答弁

もののなかつた。

医療福祉費支給制度、いわゆるマル福制度は、県の補助事業として実施し、小児については小学3年生までを対象としている。県内の市町村では、対象年齢の拡大や所得制限の撤廃など、県の補助対象事業を補完する形でそれぞれ市町村独自の助成を行っている。

本市においては、未就学児について県の補助対象とならない外来及び入院時の自己負担分及び食事

代を助成することにより、医療費の完全無料化を実施しているところである。

子育て支援対策の充実を図るため、段階的にマル福制度の年齢拡大を図ってきたが、今後の助成対象拡大については、将来的に前向きに検討していきたいと考えている。

また、中学3年生まで拡大した場合、対象者の見込み数は1千280人。医療費扶助費やその他経費を含めると約3千万円かかるが見込まれる。

防災対策の強化について

程塚裕行 議員

質問

夜間に災害が発生した場合の誘導や避難場所における夜間照明及び食糧備蓄、非常用発電の設置状況について、どのようにしているのか。

次に、避難誘導の関係だが、高齢者、一人暮らしの高齢者、障害を持った方への対策はどのようなになっているのか。特に、聴覚に障害を持っている方は音が聞こえないため、防災無線を聞くことができないことから、どのような誘導、避難後の支援の計画を立てているのか伺う。

次に、断水対策について伺う。大震災時にも、水の給水をめぐり、苦情やトラブルがあったと思う。ある市では、生活用水に関して、災害時に民間の井戸水を周辺住民が使用できるように井戸所有者に

協力を呼びかけ、協力が得られた場合、家の前に看板を掲げたり市のホームページに掲載しているそうだ。当市でも、家庭、学校、企業などで井戸を持っている方々と災害時協定を結ぶことはできないものか。

最後に、大規模な災害になると、市の防災対策だけでは対応できない部分が出てくると思われることから、自主防災組織の支援、育成が重要だと考える。市として地域防災組織の育成と、「防災の日」を設けて、年に一度ぐらいの市内一斉防災活動を展開してみたいかがだろうか。

答弁

現在、公民館、体育館、小中学校、市民センター、各地域の公民館など合計46か所を災害時の避難所として指定している。備蓄品としては、食糧や生活必需品と合わせて非常用発電機や照明設備も必要不可欠なもので、今後、物品の備蓄の充実に向けていきたいと考えている。

次に、高齢者世帯や障害を持つ方、要介護者など災害時に自力で避難することが困難な方、いわゆ



昨年の震災時に活躍した手こぎ井戸

る災害時要援護者への支援については、市民の安全安心の確保にとつて大変重要な部分である。

市では避難について、援護を受けることに同意している方々に対し、市が個別の避難計画を策定している。策定した避難計画を台帳として防災関係機関でその情報を共有し、連携して災害時に要援護者の安否確認や避難を支援するもので、本年度、茨城県の交付金を活用し、災害時要援護者の台帳作成を行う予定だ。

民間の井戸活用については、平

成16年度に旧下妻市を対象に実施した調査では、約330の井戸が確認されている。飲用には適さなくても、洗濯やトイレなどの生活用水として利用できる観点から、現状把握等も含めて地域防災計画の見直しの中で検討していきたいと考えている。

防災訓練についてだが、現在毎年11月に市内各中学校区単位で実施している。市内一斉の防災行動については、今後の新たな計画の中で検討していきたい。

野生絶滅種 コシガヤホシクサ を再び砂沼に

山中祐子 議員

質問

コシガヤホシクサとは、1938年に越谷市で初めて発見されたためその名がついた。花の形が小さい星の形をしている、湿地に生育する一年草である。

越谷市では、その後絶滅してしまつたが、1975年に砂沼で再び発見された。この時点でコシガヤホシクサの自生地は、世界で砂沼たった1か所となつた。

しかし、1994年を最後に、ついに砂沼でも絶滅してしまつた。幸い、絶滅前から保全活動をしてきた東京農業大学の先生が種を保存していたため、完全に絶滅することは免れた。

現在、コシガヤホシクサの株を譲り受けた筑波実験植物園とNPO法人アクアキャンブにより、



野生に復帰させるプロジェクトが進むコシガヤホシクサ

検討会議に参加し、江連八間土地改良区、砂沼愛魚会とともに国立科学博物館筑波実験植物園及び環境省と情報の共有に努めているところだ。

また、越谷市でも、

種子を確保

砂沼の試験区での野生に復帰させるためのプロジェクトが開始された。

世界でたった1か所しかない自生地が砂沼ということを広く市民に知らせ、植物版トキのコシガヤホシクサ草が再び自生できるよう、

越谷市とも連携をとり、市も協力してはどうかと思うがいかがだろうか。

答弁

平成22年から定期的に開催されるコシガヤホシクサ野生復帰合同

することを目的に、筑波実験植物園と連携してコシガヤホシクサを栽培しており、下妻市、越谷市の両市での実験はともに自生地への復帰を目指すものであることから、会議では意見交換をしているところである。

今後も、コシガヤホシクサの野生復帰に関係団体、関係機関と協力して積極的に取り組み、市民にも広報していきたいと考えている。

小学校の統合について

廣瀬 榮議員



平成24年度 蚕飼小学校入学式

質問

蚕飼小学校の統合について、先日の説明会の時点で、地元から何点か要望が出されているので、その要望の確認の意味を含めて伺う。はじめにスクールバスを出してもらえるのかどうかである。地区外、学区外への通学となるため、ぜひとも出してもらいたい。

また、国道294号への歩道橋

並びに通学路の整備についても要望する。

仮にスクールバスが出たとしても、永久に続くかどうかはわからない。そのためにも今後についての準備が必要だと考える。

答弁

蚕飼小学校の統合についての地域住民説明会において、一番の関

心事は、通学時の安全確保であった。蚕飼地区から宗道小学校への通学では、交通量の多い国道294号を横断すること、人家のない区間があること、通学距離が大幅にのびることなどの課題がある。

そこで、子どもの安全確保を第一に考え、スクールバスを運行することを前提に保護者や学校関係者、地域住民で組織される統合準備会で協議を行うという方針を地域の方々に説明した。

歩道橋設置については、保護者や地元住民からの設置要望を県に提出することが必要となるため、設置までには相当の時間がかかると考えられるが、地元要望を取りまとめ、県当局に提出できるように働きかけていきたいと考えている。

今後、保護者や学校関係者、地元住民で組織される統合準備会で課題を協議し、地元の要望に沿った形で計画を具体化させていきたいと考えている。

ホームページのリニューアルについて

斯波元氣議員

質問

先の東日本大震災では、多くの公共施設が破壊されたため、庁舎

内の住民関連のデータなどを格納したサーバーの機能が失われる事態や、自治体ウェブサイトへのアクセス集中により、被害状況や避難所の情報収集ができないといった事態が生じた。そのような中、

*クラウドサービスの活用により行政サービスの維持、継続が図られた事例があった。

本年度、市の公式ホームページ

がリニューアルされるが、クラウドサービスの導入も踏まえたものなのか伺う。

また、ソーシャルメディア、「ツイッター」や「フェイスブック」、「ユーチューブ」などの動画配信サービスの活用は考えているのか。

*クラウド：クラウドコンピューティングのこと。自分のシステムを自分で管理運用するのではなく、ネットワークを通じて外側のインターネット上のものを利用して、ホームページ等でコンピュータを管理していくこと。



答弁

今回のリニューアルについては、ホームページ構築後6年が経過し、他自治体と比較するとデザイン画や機能で劣ることから、携帯電話やスマートフォンにも対応した、誰もが使いやすく、情報発信力の高いもののリニューアルを行うものである。

クラウド化については、現在、ホームページの更新用サーバーは市役所本庁舎のサーバー室内に設置しているが、サーバーのリース満了を平成25年8月末に迎えることから、データセンターの利用、クラウドも視野に入れながら検討を進めているところだ。

ソーシャルメディア活用の計画については、ツイッターが東日本大震災の際に情報発信源として果たした役割が大きかったことから、ホームページのリニューアルに合わせて導入を予定している。動画配信サービスの対応については、議会の動画配信を含め、ユーチューブ等を利用した配信は、機器的整備など条件がそろえば技術的には可能であるので、今後、先進事例を踏まえ検討していきたい。

当市に於ける、教育振興策について

塚越 節 議員

質問

私は、教育行政こそ我が下妻の進むべき大道であるという考えに基づき、質問する。

当市には、下妻一高、下妻二高、下妻特別支援学校という3つの県立校がある。この3校を中心に据えた教育環境の向上のために、行政は何をすべきか。他市町村との差別化を図るためにどうアピールするかということが、最重要施策であると主張する。教育こそ、下妻の最大のアピールポイントであるということである。

近隣に小中一貫校が増設されたゆえか、下妻市内小学校から他地域の中学校へ入学される子どもが増加していると思われる。この4月に他の行政区、もしくは私立中学に進学した生徒数と今後想定される傾向性について伺う。

次に、下妻市において小中一貫校実現化の可能性を検討課題にされたことはあるのか。また今後、検討の余地はあるのか。

下妻特別支援学校は、上妻小学校との交流プログラムを継続実施中だということだが、下妻一高・二高と小中学校の教育交流、連携、人的交流があってもよいのではないか。

最後に、10年、20年先を見据え、近隣市町村との差別化を図れるよ

うな、魅力的でかつ特徴ある思い切ったアイデア、具体的施策が必要だと思いがいがかか。

答弁

平成23年度、市内10小学校からの私立等への進学者は13名。平成22年度も13名だったので、今後もこの傾向が続くのではと考えている。

小中一貫校への取り組みについては、少子化の進展する中、児童



下妻一高の正門

・生徒数の推移、または校舎等の施設状況、こういったものも合わせて総合的に判断していきたいと考えている。

質問

市内小中学校の今後の計画について

柴 孝光 議員

小中学校の耐震化工事が緊急に必要とされ、危険と思われる順に工事が行われている。

しかし、この耐震工事によって、その校舎を、これから何年も使わなくてはならない、というようなことになってしまうのではないかと、建物自体の耐用年数が過ぎてしま



大宝小学校校舎の耐震補強が進む

うようなことになりはしないのか、
という懸念がある。

コンクリート建築物の耐用年数
というのは、40年から50年が限界
と言われている。将来、かなりの
数の小学校が一斉に建て直しにな
るような感じがする。そうすると、
数百億円という予算が必要になっ
てしまうのではないか。

将来を見据えたしつかりとした
計画を立てていく必要性があると
考えるが、学校計画などをどのよ
うに進めようとしているのか考え
を伺う。

答弁

小中学校の耐震化工
事については、下妻市
学校施設耐震化推進計

画を策定し、構造耐震指標のⅠs
値が低く、危険性が高いと判断さ
れる学校施設について、計画的に
耐震化を進めている。

校舎については、今年度、大宝
小学校が耐震化工事に入り、その
後下妻小学校、騰波ノ江小学校、
上妻小学校、高道祖小学校の5校。
体育館については、既に下妻小学
校、騰波ノ江小学校、上妻小学校、
総上小学校の4校が終了し、今年

度は豊加美小学校の耐震補強及び
老朽化に伴う改修工事を進めてい
る。

これらの学校については、昭和
48年から昭和56年に建設され、古
い建物では約40年を経過している。
耐震補強及び老朽化に伴う改修工
事を行った建物の耐用年数につい
ては、明確な基準はないが、今後
20年程度は整備の必要性が少な
くなるものと考えている。

今後については、平成27年度ま
でに耐震化工事を完了させ、その
後、下妻中学校の建設工事を行う
予定である。

そしてその後に、昭和56年以降
に建設され、耐震基準は満たして
いるが老朽化が進んでいる校舎と
体育館の改修工事を行うことを予
定している。

現在進めている耐震補強工事や
老朽化の改修工事が完了するのに、
10年から15年ほどかかるとされる
ので、将来的に、校舎や体育館の
建て替え工事が同時期にならない
ように計画的に事業を進めていき
たいと考えている。

—— 請 願 ・ 陳 情 の 審 議 結 果 ——

件 名	提 出 者 住 所 氏 名	付託常任 委員会	結 果
「緊急事態基本法」の早期制定を求める 意見書提出に関する陳情書	茨城県下妻市高道祖60-106 坂 田 信 子	総 務 委員会	不 採 択
「基礎自治体への円滑な権限移譲に向けた 支援策の充実を求める意見書」の採択 に関する請願書	茨城県下妻市新堀45-3 小 平 陵 一	総 務 委員会	不 採 択

常任委員会 行政視察研修報告

総務委員会



北海道ニセコ町

7月3日から7月5日までの日程で、北海道虻田郡ニセコ町、北海道夕張郡栗山町において、行政視察を行って参りました。

まず、ニセコ町では、ニセコ町まちづくり基本条例について視察して参りました。

ニセコ町では、以前から町民講座などを通じて町民の問題意識や方向性の共有に取り組んでいまし



北海道栗山町

たが、「町長が交代したら、今までの取組や制度はどうなるのか。」という疑問が発端となり、これまでの取組や仕組を法的に支えていくためには、「自治の基本となるような条例」が必要であるという結論から、「ニセコ町まちづくり基本条例」を制定しました。

次に、栗山町では、議会基本条例を中心とする議会改革について視察して参りました。

地方分権一括法が施行され、それまで議会審議の及ばなかった機

関委任事務が廃止されたことなどにより、地方議会の役割は、より広範囲となり、責任の度合いも重くなりました。栗山町議会では、二元代表制の下での機関対立主義に基づき、執行機関をチェックし、議案に対しては、常に是非々々で望むことが重要であるという認識に加え、議会の透明性を確保するための取組や議会報告会を継続して実施し、条例に明記すべきであるという町民の意見が議会基本条例の制定につながりました。

ニセコ町、栗山町のいずれにおいても、「基本条例ありき」ではなく、既に制度として存在し、実践してきた具体的な取組や仕組を法令として裏打ちしたものが、それぞれの基本条例になったということです。

今後、本市において自治基本条例や議会基本条例の制定を検討する場合には、両町の事例を踏まえながら、議論を深めていくことが重要であると考えます。

文教厚生委員会



愛知県犬山市

6月25日から6月27日までの日程で、愛知県大府市、犬山市、小牧市の3市において行政視察を行って参りました。

まず大府市では、「ウェルネスバレー構想」について視察して参りました。

大府市とその近隣周辺は、「国立長寿医療研究センター」や「あいち健康プラザ」など、健康・医療・福祉に関する施設が多数立地する、全国でも有数の健康長寿分野関連機関の集積地です。そこで、



愛知県小牧市

世界的な健康長寿に関する新たな産業の創出と雇用の拡大を図り、健康な生活が実践できる一大拠点の形成を目指しつつ、これからの高齢化社会を乗り越えるための、先駆的な取り組みを推進していました。

次に、犬山市では「学びの学校づくり」について視察して参りました。

ここでは、「犬山の子は犬山で育てる」という共通の目標を持ち、市の独自の施策として、市費で教員を採用したり、学校の努力で学級担任を増やしたりすることで、少人数学級制を取り入れていました。この取組の効果としては、子

ども同士の信頼関係が深まることや、学級における一人ひとりの役割が充実するということが挙げられます。また保護者からは、「子どもたちに手をかけてもらっている」という声が寄せられているということです。

最後に、小牧市では「新しい学校づくり」について視察して参りました。

小牧市では、「子どもたちすべてが安心して、たのしく自己の成長に励むことのできる学校らしい学校づくりを目指す」という考えの下に、様々な取組をしていました。

学校でのコの字型座席配置や、男女混合グループの形成などが一例です。

教師は子どもたちの発想や思考に寄り添い、認め、生かす努力を続けること、また共に学ぶ楽しさ、支え合う大切さを実現・体感できる環境を作り出そうと、すべての組織や会議の見直しに努めているとのことでした。

以上で報告を終わりますが、今後の行政視察を参考に、今後の議員活動に役立てていきたいと思えます。

経済建設委員会



青森県八戸市

7月10日から7月12日までの日程で、経済建設委員会の行政視察を行って参りました。

はじめに、青森県八戸市において、八戸圏域水道企業団を訪問し、浄配水施設の維持管理及び配水管路の耐震化について視察しました。

この企業団は、現在7市町、給水人口約33万人、約13万世帯に水を供給しております。

昭和43年の十勝沖地震の被害を教訓に、全国に先駆けて導・送水管路に耐震管を導入し、平成6年の三陸はるか沖地震を契機に、配

水管についても耐震管を採用し、ライフラインの強化を図っていました。現在では管路全体の耐震化率が約35パーセントで、平成30年までには50パーセントとなるよう目標値を設定し、耐震化を推進していました。

現地視察として、白山浄水場へ行って参りました。ここは起伏の多い地域で、停電時にも送水できる高い場所に設置されていました。

次に、根城配水池へ移動し、全国的にも珍しいステンレス製の配水池を視察しました。

配水池はコンクリート製が一般的ですが、ステンレス製は導入時のコストが高いものの、将来にわ



青森県八戸市

たるメンテナンス費用が抑えられるなどのメリットがあります。この根城配水池においても、運用開始から3年経過した現在も、水質維持に関するメンテナンスは不要で、良好な状態を保っているとのことでした。

昨年の大震災において、当市の水道管は幸いにも大きな被害を受けませんでした。今後、耐震管を採用する水道事業体が増えてくることと思います。

また、ステンレス配水池においては、前例の少ないものを導入する難しさがあり、導入する際には通常以上に十分な検討が必要であると感じました。

なお、北海道と本州を結ぶ青函トンネル内に設置されている、竜飛海底駅・記念館を視察する予定でしたが、視察当日にトンネル内で事故があり、竜飛海底駅に停車する列車は運休となり、青函トンネル内の視察を行うことはできませんでした。

以上で報告を終わりますが、今後の行政視察を参考に、今後の議員活動に役立てていきたいと思えます。

SMC 筑波工場視察

去る4月20日（金）、常総市大生郷町にあります、SMC株式会社筑波工場を視察して参りました。敷地面積5万7、200平方メートルという広大な土地に工場が建っており、SMC独自の一贯生産システムという、工場内を見学させていただきました。

しもつま桜塚工業団地への工場進出が待たれるところです。



SMC 筑波工場視察の様子

永年勤続 議員表彰



須藤豊次議員

◆全国市議会議長会

○20年以上勤続

木村 進 (前議員)

○10年以上勤続

須藤 豊次

○感謝状授与

谷田部 久男 (前議員)

増田 省吾

◆茨城県市議会議長会

○20年以上勤続

木村 進 (前議員)

○8年以上勤続

笠島 道子 (前議員)

*敬称略

Eボート大会出場！



下妻市議会チーム

「第16回鬼怒川流域交流Eボート大会 茨城県大会」が5月20日に行われ、下妻市議会チームも、『チームワークでがんばります！』をスローガンに参加しました。レースでは、あと一步というところで惜しくも決勝進出を逃しましたが、川から見る大形橋や河川敷の風景は、いつもとは違って新鮮なものでした。

議会日誌

◆5月

11日 平成24年第1回臨時会
23日 第88回全国市議会議長会定期総会

◆6月

4日 議会運営委員会

◆7月

6日 平成24年第2回定例会
7日 本会議 議案上程、説明
総務委員会
文教厚生委員会
8日 経済建設委員会
11日 予算特別委員会
12日 本会議 一般質問
13日 本会議 一般質問
15日 本会議 委員長報告、質疑、討論、採決、閉会
25日 第1回議会だより運営委員会
27日 文教厚生委員会行政視察 (愛知県大府市・愛知県犬山市・愛知県小牧市)
3日 総務委員会行政視察 (北海道虻田郡二セコ町・北海道夕張郡栗山町)
4日 平成24年度茨城県市議会議長会視察研修会
10日 経済建設委員会行政視察 (青森県八戸市・北海道函館市)
19日 議会運営委員会
23日 全員協議会
第2回議会だより運営委員会

市議会を傍聴してみませんか

- 次の定例会は、9月3日から9月14日までの12日間の予定です。なお、一般質問は9月11日、9月12日の2日間の予定です。(上記日程は、変更する場合があります。)

※問合せ先:

下妻市議会事務局 0296-43-2111 内線1112・1113

下妻市役所のホームページからも「市議会だより」がご覧いただけます。また、「定例会・臨時会会議録」もご覧いただけます。

(下妻市役所ホームページ) <http://www.city.shimotsuma.lg.jp/>

編集後記

暦の上では、立秋を迎えましたが、真夏の日差しがガラガラと照りつける日が続いています。節電も大切ですが、体の調子を崩さずに、この夏を乗り切ることも心がけたいですね。時節柄、くれぐれもご自愛ください。